

Ⅲ. 教育・授業改善、FD

京都大学では、「本学の理念や目的に呼応したファカルティ・ディベロップメント(FD)を実施し、各部局において教育改善に取り組む」ことが中期目標として掲げられています。

本センターは、FD研究検討委員会等の活動を支援し、学内のFDの状況に関する情報共有を推し進めると共に、各部局と連携して、部局FDの支援を行っています。また、大学教員を多く輩出する研究大学の責務として、正規ファカルティになる前のODあるいは院生を対象としたプレFDも全国に先駆けて実施しています。

1. 新任教員教育セミナー

京都大学高等教育研究開発推進センターでは、2010年度より教育推進・学務部教務企画課の支援を受けながら、本学に新たに採用された新任教員を対象とした新任教員教育セミナーを実施しています。今年度はその6回目にあたります。

「京都大学らしい教育とはどのような教育か」を考え、「学内にはどのような教育サポートリソースがあるのか」「大学・部局や教員はどのような教育課題を抱え、それにどのように取り組んでいるのか」を知ってもらうための機会となっています。

(1) プログラム

本セミナーは、例年、前期の教育経験を踏まえることが可能な9月に実施しています。今年度は、9月25日に百周年時計台記念館国際交流ホールにて行いました。プログラムは、表1の通りです。全学、部局、個々の教員という異なるレベルでの教育的取組を、ミニ講義や討論などを通じて理解してもらうことを意図して設計されています。

表1 2015年度 京都大学新任教員教育セミナープログラム

Timetable	
12:45～	受付
13:00～	開会式 (司会:高等教育研究開発推進センター准教授 田口 真奈) 挨拶 FD研究検討委員会委員長・高等教育研究開発推進センター長・教育担当理事補 飯吉 透
13:05～	セッション1 ミニ講義1:「現在の大学教育の動向と京都大学の教育改革」 理事(教育・情報・評価担当) 北野 正雄
13:25～	セッション2 ミニ講義2:「京大の教育的取組」 ICTを使った教育—MOOCを中心に— 高等教育研究開発推進センター長 飯吉 透 高校と大学のギャップを埋めるOCWプロジェクト 国際高等教育院副教育院長 三輪 哲二
14:05～	セッション3 ミニ講義3:「京大生の学習のアセスメント」 高等教育研究開発推進センター准教授 山田 剛史
14:20～	セッション4 ミニ講義4:「私の授業」 農学研究科教授 北島 薫
14:50～	セッション5 情報提供:「京大の教育・学習支援」 高等教育研究開発推進センター教授 松下 佳代 図書館機構准教授 北村 由美 国際交流センター教授 河合 淳子
15:05～	休憩
15:20～	セッション6 グループ討論:「京大でどう教え、指導するか」
16:50～	休憩
17:05～	セッション7 ラップアップ
17:35～	閉会式 挨拶 FD研究検討委員会委員長・高等教育研究開発推進センター長 飯吉 透
閉会式終了後	情報交換会(18:30まで)

セッション1では、北野教育担当理事より、「現在の大学教育の動向と京都大学の教育改革の紹介」と題したミニ講義を行っていただきました。

セッション2では、「京大の教育的取組」として、まず、飯吉高等教育研究開発推進センター長より、ICTを使った教育について報告がありました。続いて、国際高等教育院において、様々な分野の教員がチームを組んでリメディアルのための教材開発を行った事例を、三輪副教育院長にご紹介いただきました。なお、ご紹介いただいた教材は、京都大学OCW上でどなたでもご覧いただけます（国際高等教育院数学教室：加藤信一・鈴木咲衣・田中俊二・三輪哲二・山木壱彦、協力：水野良祐、「ベクトルから行列へー線形性とは何かー」<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/ilas/01>）。

セッション3では、「京大生の学習のアセスメント」と題して、高等教育研究開発推進センター山田准教授より、京大生の学習の特徴がデータにもとづいて説明され、さまざまな評価手法についても紹介がなされました。

セッション4は、例年、参加者の評価が高い「私の授業」と題するもので、京大の先生にご自身の授業実践を具体的にご紹介いただきました。今年度は、農学研究科の北島教授に、先生の授業で実際に使われているリフレクションペーパーなどもご紹介いただきながら、具体的にその工夫についてお話しいただきました。

プログラムで最も長い時間をとっているのは、セッション6のグループ討論です。今年度は、表2のようなテーマを掲げ、学内の先生方にご協力いただきながら、5つのグループ討論を行いました。閉会式終了後に開催された情報交換会では、部局を越えて教育・研究について熱心に語り合い、また談笑する姿もみられました。

表2 セッション6 グループ討論「京大でどう教え、指導するか」各テーマと内容			
テーマ	事例紹介・情報提供		センター担当
「英語による授業」を担当することになったら	国際高等教育院 副教育院長／教授 喜多 一	英語による授業を急に担当することになったとしたら困惑する教員も多いのではないだろうか。ここでは、そのような事態になった場合に、どのように考え、何から準備すればよいのかについて考える。	田口准教授 丁研究員
基礎概念の理解を確かなものにするには	工学研究科教授 琵琶 志朗	基礎的な内容を学生に理解させ、理解を定着させていくことは重要であるが、そのためには科目間のつながりを意識し、また学生の理解度を確認しながらすすめていく必要がある。ここでは、基礎概念の理解を確かなものにするための工夫について考える。	松下教授
困難を抱えた学生に向き合うには	健康科学センター助教 上床 輝久	修学上、研究指導上の不適応を起こした学生・院生に対し、教員はどう向き合えばよいのだろうか。また、対応が必要なのはどのような場合なのか。	溝上教授
研究室をどう運営するか	学際融合教育研究 推進センター准教授 宮野 公樹	教員にとっての研究推進の場、そして高度な人材育成の場である研究室。研究室を、研究と教育の原動力として機能させるには？	奥本准教授
博士課程院生のキャリア形成を支援するには	学生総合支援センター・キャリア サポートルーム室長／教授 奥村 正悟	欧米と同様、わが国でも文系・理系を問わず、博士課程修了者が社会で広く活躍することが求められつつある。博士課程院生に対して、アカデミック・ポスト以外のキャリアも含む多様なキャリア形成を支援していくにはどうすればいいだろうか。	田中助教





(2)参加者

本セミナーは、教育目的に限定して設計されているため、受講対象となる新任教員を、「平成26年度の本セミナー実施以降、本学に採用されて、正規科目を担当している者」と定義した上で、教育推進・学務部教務企画課経由で、各部局に対して参加依頼通知を行いました。当日の参加者は68名(内訳:教授8、准教授15、講師6、助教39)でした。

(3)参加者からの評価

セミナー参加者に対して、セミナーに対する意見・感想を問う事後アンケートを行いました。その結果、50名から回答が得られました。

①セミナー開催時期について

まず、セミナーの開催時期については、適切であったという評価が46%、適切ではなかったという評価が10%、どちらともいえないという評価が14%でした(無回答16%)。

<適切であった理由>

- 一度講義した後で、このセミナーがあったので、時期的に丁度よかった。
- 着任して、半年ほどの時期であり、環境に慣れつつも問題が見えてくるころだと思います。
- 学会等が一息落ち着いた時期でかつ、夏休みで普段より自由度が高かった。
- 前期で様子を見た後で、ちょうどよかった。
- 9月はまだ時間がとれます。
- 夏休み中だと授業がない分助かるのでよい。

<適切ではなかった理由>

- もう少し年度の早い時期が良かった。既に講義があったので、来年度以降には生かせると思う。
- 後期開始直前の、比較的忙しい時期の開催だったため。
- なぜ、前期に行わないのか、理解に苦しむ。授業が始まる時期に合わせるのが、当然と考える。

②本セミナーの改善すべき点

本セミナーの改善すべき点については、1日に集中的に開催されているため、情報量が多い、ミニ講義において質疑応答の時間が十分確保されていない、グループ討論に一つしか参加でき

ないのがもったいない、などがあげられました。

- セッション2と3の間に休憩があると良いと思います。
- 単発で長時間ではなく、短時間で継続的な実施の方が良いように思う。
- 講義の行い方は別の時間をとった方がよい。授業はとても重要なポイントなので、もっと時間を費やしても良いと思う。
- グループ討論の中に興味深いテーマが多くて、一つだけ選ぶのは難しかったです。グループ討論の時間を増やして、二つのグループに参加できるようにしたら良いと思います。
- セッション6をどれか一つしか受けられないのはもったいない。(どれも参加したかった)
- 情報提供は盛り込み過ぎて、ポイントを絞った方が良かった。配布資料の事前配布。
- 新任教員だけでなく、数年後にも受講できたらよいと思った。「私の授業」は、学生に評判の良い先生に模擬授業を見せてもらえたらより参考になるのではないかと思った。
- 理系中心のつくりになっているように感じた。(数学のビデオ等)

③本セミナーに参加してよかった点

「本セミナーに参加してよかった点」についてはほとんどの回答用紙にコメントが記載されていました。本プログラムの全体の総合評価は、5段階評価の4.21と高いものでしたが、それを裏付ける具体的な回答が得られました。

- 参加する人々がどのような悩みを抱えているのかということが知れてよかったと思います。自分では問題とっていないことが、実は重要である場合があるので、他の人々の悩み(同じセッションの人だけでも)が知れて良かったと思います。
- 実際の授業準備等実践的な内容を聞くことができた。
- 英語授業に関してTipの紹介や議論、課題共有等、意義があったと思われる。Session1の京大の状況理解も現状の課題把握という面で有意義であった。
- 今まで京大出身の人と仕事をすることがありましたが、自分自身が京大に勤務することになり、京大に対して持っていたイメージと現状との乖離を痛感しつつ3ヶ月が過ぎました。このセミナーで状況がよく分かりました。
- 京大内の教育支援団体の情報を得て、特に「京大のサポートリソース」のパンフレットとセッション6がよかったです。

- グループ討論にて共通の問題意識を持つ先生方と討論ができ、解決策が得られた。
- 新任教員としてベテランの先生方に直接教育について質問したり議論できる機会は非常に有意義なものでした。(特にセッション6)
- 他の新任の先生にお会いできて良かったです。
- 入試制度の問題点(偏差値による学校・学部選びに起因する入学後のミスマッチとそれによる学業意欲の喪失の問題)を理解できた。学生のモチベーションアップ対策に考えさせられる指摘であった。
- 他の部局の先生と話ができた。思ったよりも多くの情報が得られ、京大で使えるリソースについても知らないものばかりで参考になった。
- 困った際にどのように対処すればよいのか、どこに相談すればよいのか、様々なトラブルに対して把握することができた。

今後はこうした意見を参考に、テーマを絞って短時間、継続的に実施することなども考慮していく必要があると考えます。

(田口 真奈・松下 佳代)

2. 教育サポートリソース

京都大学には、教育サポートを行っている多くの組織があります。しかし、従来、その活動を一目で見渡せる資料がありませんでした。そこで2012年に作られたのが「京都大学の教育サポートリソース」です。

その後、3年の間に、組織の改編・統合があり、活動の中身も変わってきました。それに伴い、今年度は、情報環境機構、図書館機構、総合博物館、学生総合支援センター、国際交流機構国際交流センター、男女共同参画推進センター、高等教育研究開発推進センターの各組織から情報提供を受けて、第2版を作成しました。

本パンフレットは新任教員教育セミナーのプログラムにおいて参加者に配布し、説明を加えたほか、後日、全学の教員にも配布しました。

(田口 真奈・松下 佳代)



パンフレットURL http://www.fد.kyoto-u.ac.jp/resource/2015support_resource.pdf

3. プレFD

「プレFD」とは、これから大学教員になろうとする大学院生やオーバードクター(OD)・ポスドク(PD)のための職能開発活動の総称です。ここでは、本センターが支援する、3つのプレFDの取り組みについてご紹介いたします。

(1) 文学研究科プレFDプロジェクト

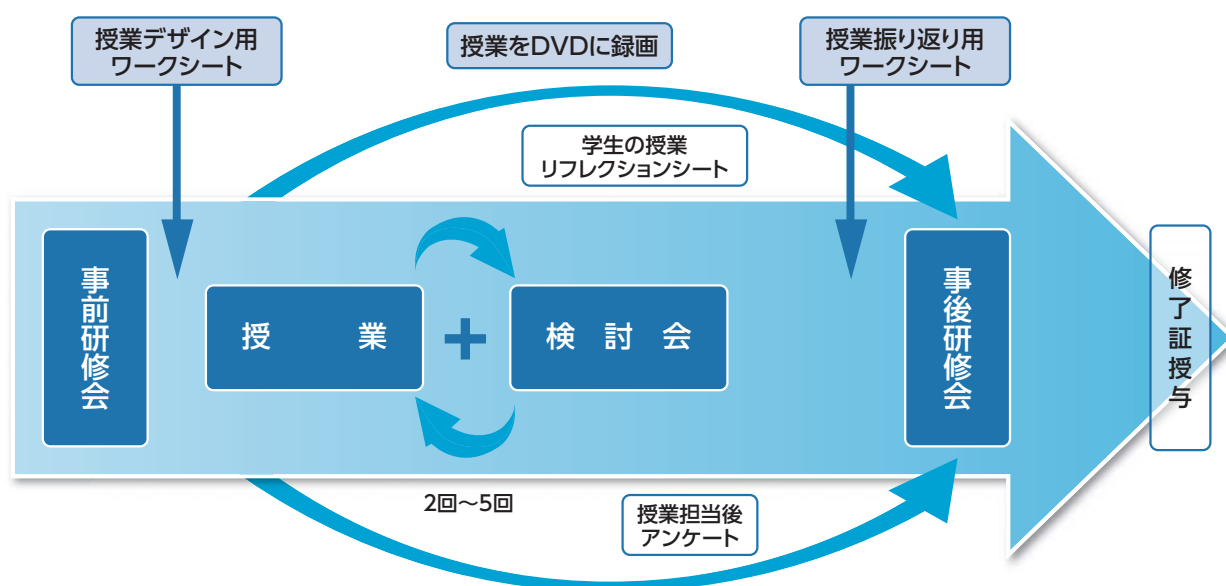
文学研究科プレFDプロジェクトは、文学研究科とFD研究検討委員会が共同で主催する、文学研究科のODによるリレー講義形式のゼミナールです。本プロジェクトは、年度はじめの事前研修会、各ODを講師とする2～5回の公開授業、他の講師およびコーディネーターを交えた授業ごとの検討会、そして年度末の事後研修会により構成されます。所定の条件を満たした講師には、京都大学総長よりプロジェクトの修了証が授与されます。今年度は、文学研究科よりコーディネーター3名、教務補佐員2名、講師19名が参加し、本センターより5名がこれをバックアップする形で、哲学基礎文化学系と基礎現代文化学系の2つのリレー講義が展開されました。

● 文学研究科プレFDプロジェクト

<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/prefd/literature/>



授業風景および授業後の検討会の様子



文学研究科プレFDプロジェクトの流れ

(2) 大学コンソーシアム京都・単位互換リレー講義

本センターは今年度より、プレFDプロジェクト修了後の発展的プログラムとして、大学コンソーシアム京都との連携のもと、文学研究科が提供する単位互換リレー講義「人文学入門」のサポートも積極的に行っています。2015年度は「感性の言語化」、「人間の社会性」、「他者の問題」、「人生の意味」といったテーマに関してコーディネーター1名と講師4名が哲学系の授業を展開し、受講者から多くの肯定的評価を得ました。来る2016年度は、日本を含むアジア全体の近・現代的問題について多角的に授業を展開する予定であり、目下、コーディネーター1名と講師7名が一丸となってシラバスを作成中です。本プログラムでは、プレFD修了生が協力し合い、個々の担当授業だけでなく、半期15回の講義全体をデザインするという経験を積むことに主眼が置かれています。また、受講生が所属する大学も様々であり、こうした多様な学生に対応するため、若手講師がそれぞれ創意工夫を凝らし、アクティブラーニングを取り入れた新たな授業形式にも積極的に挑戦しています。

● 文学部単位互換リレー講義「人文学入門」

<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/prefd/literature/consortium/>



課題作業やディスカッションを取り入れた授業の様子

(3) 大学院生のための教育実践講座

大学院生のための教育実践講座は、京都大学FD研究検討委員会が主催となり、将来、大学教育に携わることを希望する本学の大学院生（PD・研修員などを含む）のために、ファカルティ（大学教員）へと自己形成していくきっかけとなる場を提供するプログラムです。今年度は、8月4日午前10時から午後6時半まで、京都大学百周年時計台記念館2階で開催されました。昨年度はBasicとAdvancedの2コース制でしたが、後者が研究科横断型教育プログラム「大学で教えるということ」に統合されたことにより、今年度は1コース制での実施となりました。研修会直後にアンケートを実施し、回答数42件についてコースに対する満足度を5件法（1: まったく満足していない ～ 5: 非常に満足している）で評価したところ、全体平均4.47点（グループ討論4.43点、ミニ講義4.43点、コミュニケーションデザイン4.42点）となり、この取り組みに対する高い満足度がうかがえます。本センターでは今後も、若手研究者が将来大学教員となるための準備をすすめることができるよう、以上のようなプレFDの取り組みを強力に支援していきたいと考えています。

● 大学院生のための教育実践講座

<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/prefd/study/index.html>

（佐金 武・田口 真奈）



グループごとのディスカッションと全体討論の様子

4. 全学教育シンポジウム

(1)概要

このシンポジウムは、1996年から年1回開催されており、京都大学の教職員が全学的な教育のあり方や、教育の改善・充実の方向性について議論し、部局の枠を越えた教職員の交流をはかる場になっています。

近年は教育担当理事が主催し、今年度からFD研究検討委員会の企画により、国際高等教育院企画調整掛、教育推進・学生支援部教務企画課教育企画掛の協力の下、本センターが実施・運営に携わっています。今年度は、「京大流・未来を拓く人の育て方」をテーマにして、9月2日に桂キャンパスで開催されました。参加者は273名でした。

全学教育シンポジウム プログラム	
10:00～	開会挨拶：北野 正雄 理事(教育・情報・評価担当)
10:05～	基調講演：山極 壽一 総長 「大学が直面する課題と京都大学が目指す教育」
10:40～	報 告：FD研究検討委員会・高等教育研究開発推進センター「10学部の特徴ある教育の報告」 (10学部11学科の映像と質疑応答)
12:00～13:30	(昼食・休憩)
13:30～	講 演：北野 正雄 理事 「京都大学の教育改革とそれを取り巻く状況」
14:00～	報 告：①「京都大学における高大接続・高大連携の取組みについて」 森脇 淳 理学研究科長 ②「入学選抜と特色入試」 木南 敦 教育担当理事補 法学研究科教授 ③「平成28年度からの教養・共通教育」 喜多 一 国際高等教育院副教育院長
15:00～	休 憩
15:20～	パネルディスカッション「京大流・未来を拓く人の育て方」 コーディネーター：飯吉 透 教育担当理事補 高等教育研究開発推進センター長 パネリスト：山極 総長、北野 理事、森脇 研究科長、木南 理事補、喜多 副教育院長 柴 浩司 大阪府立大手前高等学校長 仲 暁子 ウォンテッドリー株式会社代表取締役CEO
16:50～	閉会挨拶：飯吉 透 教育担当理事補 高等教育研究開発推進センター長

(2)「10学部の特徴ある教育の報告」について

プログラムの中でも、私たちが最も力を入れて取り組んだのが「10学部の特徴ある教育の報告」です。全学教育シンポジウムの議論はこれまで教養・共通教育が中心でしたが、今年度からは、学部・大学院を含めた全学的な視点から京都大学の教育のあり方を考えることをめざしています。そこでまず、部局自治の下で互いに見えにくくなっている各学部の教育の特徴を、その学部らしい特色ある教育的取組に焦点をあてて見ていこうというのが、この報告の趣旨でした。報告は、まず10学部11学科(医学部のみ、医学科と人間健康科学科の2学科に分けて作成)の特色ある教育的取組を紹介する映像を流し、それについて各学部から補足コメントをしていただく、という形で行いました。



学 部	特 色	コメンテーター
総合人間学部	①副専攻の必修化 ②クラス担任制と教員アドバイザー制 ③自学自習のサポート	石川 尚人 教授
文学部	①少人数教育 ②学生支援(国際化、先輩・学生相談室)	川添 信介 教授 (研究科長)
教育学部	①「理論」と「実践」の往還 ②「対話型」教育 ③「文理融合の視点」を重視した教育	子安 増生 教授 (研究科長)
法学部	①法学部基礎演習 ②段階的・体系的・集中的学習	堀江 慎司 教授
経済学部	①入門演習 ②国際化に向けたカリキュラムの改編	松井 啓之 教授
理学部	①ゆるやかな専門化 ②学生支援 ③国際化への対応	鈴木あるの 講師
医学部医学科	①モジュール制 ②マイコース・プログラム ③京都大学の教育への提言	岩井 一宏 教授 (副研究科長)
医学部 人間健康科学科	①早期体験型学習(アーリー・エクスポージャー) ②実践型学習	黒木 裕士 教授
薬学部	①医薬品開発プロジェクト教育 ②Small Group Discussion(SGD演習) ③薬学専門実習	加藤 博章 教授 (副研究科長)
工学部	①エビデンスに基づく学習支援 ②ポートフォリオによる個別指導 ③国際化への対応	伊藤紳三郎 教授 (研究科長)
農学部	①実習科目の重視 ②国際化への対応 ③高大接続	宮川 恒 教授 (研究科長)

映像の作成にあたっては、まず、北野理事名で各学部長に対して「学部の教育について最も詳しい教員」の推薦を依頼し、推薦された教員(各学部1～3名)や職員の方々に対し、6月上旬から7月中旬にかけてインタビューを行いました。

さらに、各学部所有の映像・写真・図表などを提供していただくとともに、授業風景などをあらたに撮影して、各学部3分半～4分程度での映像にまとめました。

(3)成果と今後の課題

全学教育シンポジウムの事後アンケートでは、回答者118名中75名が「10学部の特色ある教育の報告」を「良かったプログラム」と評価しました。映像によって各学部の教育の特徴を概観するというのが新鮮だったという感想を数多くいただきました。今回作成した映像については、各学部の教育の紹介等に活用していただければと考えています。

(松下 佳代・佐金 武・福田 宗太郎)



動画を用いた「10学部の特色ある教育の報告」